

あらすじ

あいひつ

制作にあたって

すきまからの贈り物

彩花は本が大好きな五年生。でも推薦図書を決める話し合いの場で自分がおすすめる本を言い出せずにいました。他の人たちはどんどん決めていきます。今日の放課後までに決めてよね!とクラスメイトから言われ話し合いは終わります。図書室に一人残る彩花。片隅に見慣れない本が一冊。タイトルは「あなたの願いかなえます」本を開くと不思議な人物が現れました。どんな願いもかなえますと言われた彩花は過去の行いをやり直したいと考えます。しかし、かなえるためには条件がありました。それは裸の王様とちんじし、最後まで物語をやり遂げること。果たして願い事はかなうのでしょうか。そして彩花の推薦図書とは――

休み時間になると教室か図書室で一人ポツンと本を読む、主人公の彩花はそんな子どもです。彩花には自分の本当の気持ちを話せる友だちがいませんでした。それがこの不思議な一日を過ごすことで、「王様」という友だちを得、そして現実の今を生きていることがちょっと嬉しくなりました。もう二度と会えないかもしれないけれど「王様」は彩花の心の中にこれからも住み続けることでしょう。お芝居を見た子どもたちにも、この魔法を、すきまからの贈り物を届けられたらと思います。この作品を創るにあたって、劇団の近くにある小学校の子どもたちとの楽しい出会いがありました。「はだかの王様」をモチーフに担任の先生がオリジナルの脚本を書き、子どもたちが劇作りをしたのです。「これからは、かっこつけない、はだかの自分でいそ!」王様のセリフが笑いを誘いながらも清々しく深く、この発想に助けられ不思議なお芝居ができました。

ちんじし 図書室のすきまから

彩花の背中を押した図書室の魔法。

作・演出◎大淵弘幸

居場所を探す子どもたちと出会って

私の好きな歌に、
自分の中の嫌いなところ
自分の中の好きなところ
どっちが多いのかももうわかって悲しくなった
という歌詞があります。子どもたちは「自分の中の嫌いなところ、好きなところ、どっちが多いですか?」と聞かれたらどう答えるでしょう。
私は日頃、表現遊びワークショップ、コミュニケーションワークショップなどを通して多くの子どもたちと出会っています。自分の嫌いなところを心の真ん中に抱え込み、居場所を探している子どもがたくさんいると感じました。
物語の主人公である彩花もその一人。彼女の身に次々と突拍子もないことが起こります。この劇を観ている子どもたちが、自分ならどうする?と勝手に思ってくれたら、そして彩花と共に一歩踏み出し、心の扉を少し開いてくれたらととてもうれしいです。

創造は自分というウツワ磨き

運命のスイッチはある日突然、少女と王様の理不尽なチェンジを要求する。二人はそんなスリリングな体験を通し、本来交わることさえないお互いの内面へ視点に向かうことで、普段閉ざしがちな自らのココロの深層に近づいていく。性格の単なる表層ではなく客観的な俯瞰が成立していく過程はなかなか巧みなストーリー展開。そうして始まる自分磨き。つまるところ創造・表現とは人間というウツワ磨きではないか。ささやかな最初の一步を踏み出さんとする二人にはある種の愛おしさなど感じつつも、その一步はもしかしたらささやかすぎて本当に進んでいるのか心もとなくさえあるが、それでいいのだ。「道は先にしかないのです…なら、楽しむことです!」(劇中の台詞より)と背中をおしてくれる誰かはぎっといる。

美術◎ナカムラジン

